「地球温暖化予測情報第9巻」データセット解説書(令和3年2月改訂) 正誤表 (修正箇所を<u>赤字下線</u>で示す。図表については修正箇所の記載を省略。)

修正日	対象	正	誤
2022年	P.37	5.1 気温要素	5.1 気温要素
3月15日		(1)平均気温	(1) 平均気温
		モデル値 (補正なし) には、 <u>夏(6~8月) は北日本に正</u>	モデル値(補正なし)には、 はぼ全ての地域の年平均で
		のバイアスがあり、冬(12~2月)は北日本と東日本に	観測値との関係にばらつきがあり、また、負のバイアス
		<u>負のバイアスがある。</u> モデル値(補正あり)では、ばら	がある。季節別でも、夏(6~8月)を除いて全国的に負
		つきはほとんどなく、また、バイアスは解消される(図	$\underline{\mathit{onidra}}$ のバイアスがあり、特に冬($12{\sim}2$ 月)の負のバイアス
		5.1)。	<u>が大きい。</u> モデル値(補正あり)では、ばらつきはほと
			んどなく、また、バイアスは解消される(図 5.1)。
		Temp annual 全間 Temp annual 全面 Temp annual ann	temp summer (金剛) temp summe
		均気温の観測値とモデル値の散布図	均気温の観測値とモデル値の散布図

全国のアメダス地点における 20 年平均(1980~1999 年平均)した年 (左)、夏 (6~8月;中)及び冬 (12~2月;右)の平均気温と各地点に対応するモデル値(上段:補正なし、下段:補正あり)との関係を示す。アメダス地点はこの期間のデータが8割以上ある地点のみを利用。横軸は観測値、縦軸はモデル値。図中右下の数値はR:相関係数、Point:プロットした地点数を示す。

(注:図 5.1 と同じ図を掲載している解説書 P.52 (資料 1)、概要版 P.5-6 についても差し替えを行っている)

全国のアメダス地点における 20 年平均(1980~1999 年平均)した年 (左)、夏 (6~8月;中)及び冬 (12~2月;右)の平均気温と各地点に対応するモデル値(上段:補正なし、下段:補正あり)との関係を示す。アメダス地点はこの期間のデータが8割以上ある地点のみを利用。横軸は観測値、縦軸はモデル値。図中右下の数値はR:相関係数、Point:プロットした地点数を示す。

修正日	対象	正	誤
2022年	P.38	(2) 日最高気温	(2)
3月15日		モデル値 (補正なし) には、 <u>年平均、 秋及び冬の全地域、</u>	モデルイ
		春の東日本太平洋側及び西日本、夏の西日本太平洋側及	び全季節
		<u>び沖縄・奄美で</u> 負のバイアスがあり、平均気温に比べて	アスの約
		バイアスの絶対値が大きい。平均気温と同様に冬の負の	アスがん
		バイアスが他の季節に比べて大きい。モデル値(補正あ	では、『
		り)では、ばらつきはほとんどなく、また、バイアスは	される
		解消される (図 5.2)。	(略)
		(略)	
		The teas annual 全国 to the state of the stat	福正 なし 福正 なし 150 50 50 50 50 50 50 50 50 50
		図 5.2 全国アメダス地点における 20 年平均した日最	図 5.2
		高気温の観測値とモデル値の散布図	高気温の
		全国のアメダス地点における 20 年平均(1980~1999 年平均)した	全国のア
		年 (左)、夏 (6~8月;中) 及び冬 (12~2月;右) の最高気温と各	年(左)、

(2) 日最高気温

モデル値(補正なし)には、<u>ほぼ全ての地域の年平均及び全季節に</u>負のバイアスがあり、平均気温に比べてバイアスの絶対値が大きい。平均気温と同様に冬の負のバイアスが他の季節に比べて大きい。モデル値(補正あり)では、ばらつきはほとんどなく、また、バイアスは解消される(図 5.2)。

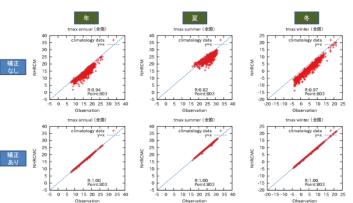


図 5.2 全国アメダス地点における 20 年平均した日最高気温の観測値とモデル値の散布図

全国のアメダス地点における 20年平均($1980\sim1999$ 年平均)した年 (左)、夏 ($6\sim8$ 月;中)及び冬 ($12\sim2$ 月;右)の最高気温と各

地点に対応するモデル値(上段:補正なし、下段:補正あり)との関係を示す。アメダス地点はこの期間のデータが8割以上ある地点のみを利用。横軸は観測値、縦軸はモデル値。図中右下の数値はR:相関係数、Point:プロットした地点数を示す。

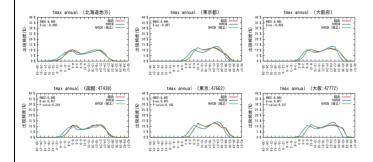


図 5.3 都道府及び地点別の最高気温の頻度分布

上段は左から順に北海道、東京都、大阪府、下段は左から順に函館 (北海道)、東京 (東京都)、大阪 (大阪府) における 1980~1999 年 の日最高気温の階級相対出現頻度 (3℃ごと)。赤線:観測値、青線:モデル値 (補正なし)、緑線:モデル値 (補正あり)。図中左上の数値は RMSE:平方根平均二乗誤差、Bias:観測値とモデル (補正あり)の 20 年平均値の差、P-value: K-S 検定の P値を示す (RMSE、P-value の詳細については資料 2 を参照)。

地点に対応するモデル値(上段:補正なし、下段:補正あり)との関係を示す。アメダス地点はこの期間のデータが8割以上ある地点のみを利用。横軸は観測値、縦軸はモデル値。図中右下の数値はR:相関係数、Point:プロットした地点数を示す。

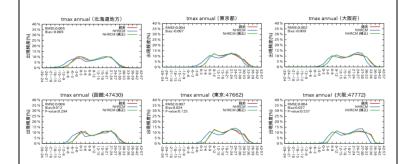


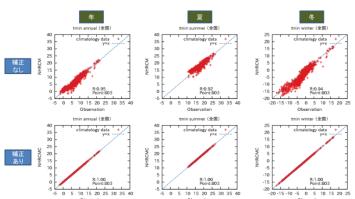
図 5.3 都道府及び地点別の最高気温の頻度分布

上段は左から順に北海道、東京都、大阪府、下段は左から順に函館 (北海道)、東京(東京都)、大阪(大阪府)における 1980~1999 年 の日最高気温の階級相対出現頻度 (3℃ごと)。赤線:観測値、青線:モデル値(補正なし)、緑線:モデル値(補正あり)。図中左上の数値は RMSE:平方根平均二乗誤差、Bias:観測値とモデル(補正あり)の 20 年平均値の差、P-value: K-S 検定の P値を示す(RMSE、P-value の詳細については資料 2 を参照)。

修正日	対象	正	誤
2022年	P.39	(3) 日最低気温	(3)日最低
3月15日		モデル値(補正なし)について、 <u>年平均及び各季節(冬</u>	モデル値(補
		を除く)でほぼ全ての地域に正のバイアスがある。冬の	は観測値との
		北日本日本海側、東日本日本海側では負のバイアスがあ	あり、バイア
		る。モデル値(補正あり)では、バイアスは解消される	のバイアス、
		(図 5.4)。	る。モデル値
		(略)	(図 5.4)。
			(略)
		## tenin semual 全間	##III
		図 5.4 全国アメダス地点における 20 年平均した最低	図 5.4 全国
		気温の観測値とモデル値の散布図	気温の観測値
		全国のアメダス地点における 20 年平均 (1980~1999 年平均) した	全国のアメダスは
		 年 (左)、夏 (6~8月:中) 及び冬 (12~2月:右) の最低気温と各	年 (左)、夏 (6~

5.気温

#正なし) について、全ての地域の年平均で り関係にばらつきはあるが、概ね比例関係に "スは小さい。季節別では、夏の北日本で正 冬の北日本と東日本で負のバイアスがあ 直(補正あり)では、バイアスは解消される



アメダス地点における 20 年平均した最低 直とモデル値の散布図

は地点における 20 年平均(1980~1999 年平均)した 年 (左)、夏 ($6\sim8$ 月;中)及び冬 ($12\sim2$ 月;右)の最低気温と各 $\boxed{}$ 年(左)、夏 ($6\sim8$ 月;中)及び冬 ($12\sim2$ 月;右)の最低気温と各 地点に対応するモデル値(上段:補正なし、下段:補正あり)との関 │地点に対応するモデル値(上段:補正なし、下段:補正あり)との関 係を示す。アメダス地点はこの期間のデータが 8 割以上ある地点の みを利用。横軸は観測値、縦軸はモデル値。図中右下の数値は R:相 関係数、Point:プロットした地点数を示す。

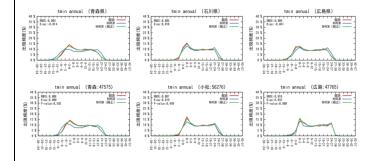


図 5.5 県及び地点別の最低気温の頻度分布

上段は左から順に青森県、石川県、広島県、下段は左から順に青森(青森県)、小松(石川県)、広島(広島県)における 1980~1999 年の日最低気温の階級相対出現頻度(3℃ごと)。赤線:観測値、青線:モデル値(補正なし)、緑線:モデル値(補正あり)。図中左上の数値は RMSE:平方根平均二乗誤差、Bias:観測値とモデル(補正あり)の 20 年平均値の差、P-value: K-S 検定の P値を示す(RMSE、P-value の詳細については資料 2 を参照)。

係を示す。アメダス地点はこの期間のデータが8割以上ある地点のみを利用。横軸は観測値、縦軸はモデル値。図中右下の数値はR:相関係数、Point:プロットした地点数を示す。

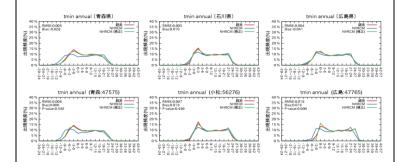


図 5.5 県及び地点別の最低気温の頻度分布

上段は左から順に青森県、石川県、広島県、下段は左から順に青森 (青森県)、小松 (石川県)、広島 (広島県) における 1980~1999 年 の日最低気温の階級相対出現頻度 (3℃ごと)。赤線:観測値、青線:モデル値 (補正なし)、緑線:モデル値 (補正あり)。図中左上の数値 は RMSE:平方根平均二乗誤差、Bias:観測値とモデル (補正あり)の 20 年平均値の差、P-value: K-S 検定の P 値を示す (RMSE、P-value の詳細については資料 2 を参照)。